

岩手県大槌町大ケ口地区における災害公営住宅の整備

[応募者名] 勤務先名：大槌町・独立行政法人都市再生機構
 勤務先住所：岩手県上閉伊郡大槌町上町1番3号・岩手県盛岡市中央通1-7-25 朝日生命盛岡中央通ビル8F
 連絡先（勤務先）：独立行政法人都市再生機構 本社 岩手震災復興支援局（担当者：木下） Tel: 019-601-6437 Fax: 019-604-3028

1. 地域への配慮事項

大槌町は東日本大震災により大きな被害を受けた自治体の1つである。今もなお多数の方々が仮設住宅での住まいを余儀なくされており、生活再建のため一刻も早い災害公営住宅の供給が望まれている。

災害による落命等の直接的被害、住宅を失ったことによる離れ離れの生活でバラバラになったコミュニティの再生に向けた仕掛けづくりが災害公営住宅に求められている。

復興まちづくりの初動期の事業において、大槌の再生のために今後の住まいづくりの指針的な役割を果たすような計画・デザイン提案が必要であった。

2. 作品の概要

2.1. 事業主体等

- ①事業主体：大槌町
- ②事業監理・発注：独立行政法人都市再生機構
- ③基本設計：株式会社久慈設計

2.2. 計画概要

- ①敷地面積：12,708㎡（約3,844坪）
- ②建物面積：建築面積3,897㎡ 延床面積：4,047㎡
- ③構造・階数：木造長屋・1～2階建て
- ④住戸数・形式（戸数）：70戸・1DK(27)、2DK(17・内車椅子対応4)、3DK(20)、4DK(6)
- ⑤付属施設：集会所

3. 作品の特徴

大槌町は、震災復興事業等のノウハウをもつ都市機構と連携し、震災復興事業に取り組んでおり、大ケ口地区に災害公営住宅の入居第1号（以下「当住宅」という）として建設した。

限られた時間及び予算の中で、大槌らしい住まいとして下記の点に配慮して、計画をした。

3.1. 地域特性に配慮したデザインコンセプト

豊富な山林資源と大槌川に接する水資源の豊かな地域である。豊かな自然と共に歩んできた人々の営みの継承、周辺景観との調和を意識したデザインとした。

①里山の風景との調和

美しい里山の風景や周辺の街並みになじむように低層の和風建築とした。

②豊富な水資源の活用

広場Bに井戸を設置。子どもは水遊び、大人は井戸端会議に使い、日常的な交流の場となるよう計画した。

③地元企業・産材の活用

大槌町産材を全体の約6割活用し、木の温もりを感じられる和風建築を表現すると共に地元産業の活性化を期待した。

④日照への配慮

低層かつ居室の南面配置により、冬でも陽の当たる暖かな居室を確保した。

3.2. 住民交流を促す住まいづくりと高齢者への配慮

高齢者への配慮に加え、居住者同士の何気ない会話等、交流が自発的に生まれる計画とした。

①縁側による開かれた住まい

各住戸南側に縁側を設置。歩行者空間を通る人との日常的な交流を促す適度な住棟間、プライバシーに配慮した緩衝帯としての緑地空間を計画した。

②地域住民との交流

当住宅の入り口に地域全体の交流の場となるよう集会所と広場Aを配置。集会所は広場との一体利用、既存のサークル活動の利用等を想定して計画した。

③居住者同士の交流

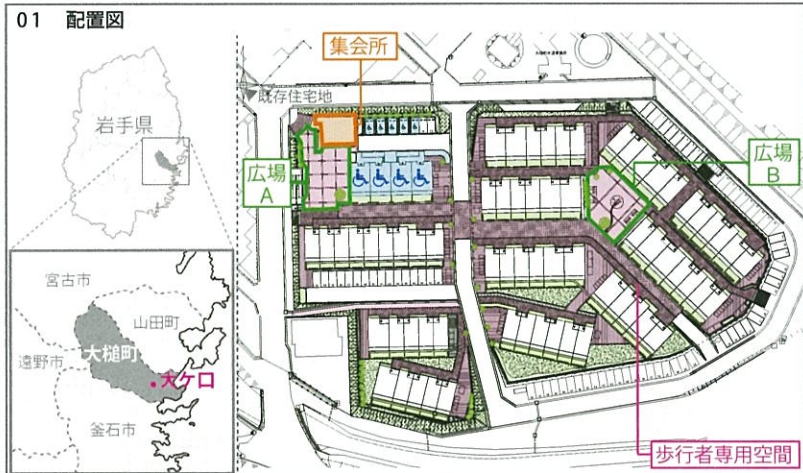
日常的に居住者が顔を合わせやすい当住宅の中心に広場Bを配置。子どもたちから高齢の方まで世代間の交流を促す場として計画した。

④安心して歩ける歩行空間

歩行者専用空間を確保し、安心して歩けるだけでなく住民同士の交流の場となるよう計画した。

⑤高齢者に配慮した住まい

高齢者や車椅子の居住者に配慮し、玄関前の段差を解消した車椅子対応住戸・駐車場を確保した。



地元産材の活用 縁側空間



広場A・集会所



広場B・井戸



安心して歩ける歩行空間



高齢者に配慮した住まいづくり

